

トラン バオ クイン

ベトナム出身/2020年度奨学生

上智大学 グローバルスタディーズ研究科 博士前期課程

※秋学期制のため2020年9月を以て博士前期課程および奨学生を修了

①危機の時代に考えること

気がついたら秋を迎えました。最近「すこし寒くなったな」と思いながらの散歩や、日の暮れるのもどんどん早くなっていくと感じるようになりました。実は、2月にベトナムから日本に戻ってから、時間がそのまま止まっているような気がします。なので、秋めいているサインを感じる瞬間、何も変わらずに時間が流れていると気づいていました。確かに、時間が進まなくなったら、私もこの9月に大学院卒業証明書を取得することができなくなります。新型コロナウイルスの状況ですでに卒業した今、過去6ヶ月の学生生活を振り返ると、恐怖に陥るとともに新しい変化が期待できる時期だと考えています。

日本での6年間の生活の中で、過去の6ヶ月には一番不安な日々を送っていました。坂口国際育英奨学財団の奨学金と日本政府の支給金のおかげで、経済的に困っていませんでしたが、精神的には少し影響されました。2014年に来日して、2016年の熊本地震で、初めて避難を経験しましたが、その時の不安は今と比べたら何もないほど言えます。なぜかというと、震災への対応に対して日本は経験豊富な国だと分かっていたからです。その一方で、コロナ感染への対応・治療は世界中いまだに不明の状況です。感染されるリスク以外、コロナ感染拡大に伴う危機も恐れていました。私の場合は、学校が開校されるのか、そして定期的に卒業できるのかと心配していました。他には、アメリカに留学している友達の場合、すべての授業がオンラインとなった場合、アメリカに滞在できなくなるというニュースで慌てていました。ですが、不安に

襲われれば襲われるほどメンタルヘルスにダメージを与えやすいので、楽観的に物事を見ることが大事だと気づきました。そうならないように、外出を控えていた期間中には、家族や友人と連絡を取ったり、新しい趣味を見つけたりしました。

また、そのような混乱した状況の下、様々なポジティブな変化が見えました。特に、オンライン授業やテレワークの制度が促進され、ZoomやMicrosoft Teamなどのビデオ通話プラットフォームを通じて仕事を進めるようになりました。今までのオンラインプラットフォームでのやり取りは単純な目的に向けて行われていますが、それより幅広い範囲で活用できたらいいなど期待しています。例えば、今年から入ってきた大学の一年生は普段通りのオンライン授業を取ることができますが、部活動に参加したり、交流したりするのが難しいかもしれません。オンラインイベントを開いても、どうやって全員が不快感なく楽しく参加してもらえるのかの工夫を考える必要があると思います。これは世界中の人々にとってチャレンジですが、良い革新の機会となっているのではないかと考えています。

②奨学生期間中にできたこと・将来計画

2019年度から坂口国際育英奨学財団の奨学金を受給することによって、研究に専念できる時間が増えたことに喜びを感じます。ベトナムの技能実習生が急激に増えたという社会的な背景から興味を抱き、技能実習制度に興味を持つようになりました。技能実習制度は何かというと、開発途上国等の人材を一定期間受け入れ、

技能・技術・知識を修得させることにより、それらの人材が帰国後に日本で得た知識等を活用する事で母国の発展に貢献することを目的とした国際協力のためのものです。

具体的に、研究のテーマは「ベトナム人技能実習生—その現実と問題」であり、2019年6月から6か月かけて、埼玉県 of 川口市・本庄市と千葉県 of 成田市の3ヶ所を中心に、データ収集を行いました。インタビューでは、在日のベトナム人技能実習生の日本に来る希望動機、または仕事と日常生活での問題、そしてプログラム終了後の将来計画などの内容を聴きました。

技能実習生が仕事と日常生活で数え切れないほど様々な問題に直面しています。この近年、ニュースや新聞でも、暴力、低賃金、残業代の未払い、または、実習生の犯罪など問題が取り上げられています。私とのインタビューを受けた23人のベトナム技能実習生の中では、そのような問題を抱えていないのですが、やはり言語の壁が共通な問題です。日本語能力不足で日本人のスタッフとコミュニケーションを取れず、仕事の仕方についていけない結果、日本人のスタッフに怒られたり、仕事に対してモチベーションが下がったりするケースは少なくないです。

なので、大学院の2年間の中で、最もうれしいことはやはり技能実習制度、特に在日のベトナム人の実習生のことを、より多くの人々に理解してもらうことです。卒業論文の一部をまとめ、「Vietnamese Technical Trainees in Japan Voice Concerns Amidst COVID-19」という学術論文を2020年9月に掲載されることになりました。記事のタイトル通りに、新型コロナウイルスが拡大する中で、技能実習生が直面した課題やそれに対して日本政府と受け入れ企業の扱いなどを分析します。また、ベトナム人技能実習生の保護に力を注いでいる日本の民間団体の役割も紹介しています。今回は、初めて学術記事を提出しましたが、卒業論文の執筆と

は違って、より論理的かつ正確に書く必要があると実感しました。この論文の作成から掲載まで、何か月かけて編集しましたが、その過程で色々勉強することができました。この論文を通じて、もう少し国内外の人々に技能実習生のことを広げられたらと思います。

卒業してから、1週間しか経っていませんので、嬉しい気持ちも懐かしい気持ちもまだ胸いっぱいです。印象に残った研究エピソードを一つあげると、食事を通じてベトナム人技能実習生との信頼関係を築くことです。私は彼らの家まで足を運び、直接インタビューすることが多いですが、インタビューが終わった後、いつも手料理のホームパーティーに招待してもらいます。経済的に何もやってあげることのない私にいろいろ聞かせてもらう以外、彼らの心のこもったおもてなしに感謝の気持ちが溢れています。

これまで私を成長させてくれた日本に、心から感謝を申し上げたいと思います。卒業後の予定については、進学と就職の選択肢で迷っていますが、どちらにしても日本との長いご縁を大切にしながら、新しいことにチャレンジしていきたいと思います。これからも宜しくお願い致します。

学術論文へのアクセス：

<https://apjif.org/2020/18/Tran.html>

(2020.9 記)